

広島湾再生行動計画 第2回中間評価 【概要】

目標	評価	主な行動指標	主な状態指標
<p>森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。</p> <p>水環境の再生</p>	<p>○下水道整備、森林の保全・整備は計画どおり進んでいる。</p> <p>○底質改善パイロット事業は、目安を達成した。</p> <p>○広島湾の水質状況は、赤潮、底層DOともに変動はあるものの改善傾向であり、透明度も目標を達成していることから、全体としては良好な方向に進んでいるが、経年的に見ると海田湾、呉湾の一部箇所では、底層DOが低い時も見られる。</p> <p>○広島湾の大きな特徴の一つである かき養殖は、近年赤潮等による漁業被害を受けることもなく、収穫量も2万トン前後で維持されている。</p> <p>(課題)</p> <p>○水環境は様々な要因で変動することから、必要なモニタリングは継続する。</p>	<p>汚水処理対策の推進</p> <p>下水処理人口普及率の推移 約4.5% 向上</p> <p>森林の保全・整備</p> <p>森林の保全・整備面積の推移 約2.2kha (約16%) 向上</p> <p>石灰炭造粒物を用いた海底の底質改善 (海田湾)</p> <p>底質改善箇所周辺の溶存酸素の分布 底質改善箇所での確認された生物(一部) テッポウエビ、イシガニ、イシモチ</p> <p>○下水道整備、森林の保全・整備は計画どおり進捗。 ○底質改善パイロット事業は目安を達成。</p>	<p>変動はあるものの改善傾向</p> <p>赤潮発生件数、漁業被害件数の推移 3件減少</p> <p>底層DOの目標値(2mg/L)を満足する地点 13/25地点 (H20), 17/25地点 (H24)</p> <p>かき収穫量(むき身)の推移 約1,204トン増加</p> <p>透明度の目標値(夏季1m以上)を満足する地点 全ての地点で目標を達成</p>
	<p>生物生息・生産の場の保全・再生</p>	<p>○広島湾全体では、干潟・藻場の保全・再生及び生物に配慮した護岸等の整備が進んでいる。</p> <p>○広島港五日市地区人工干潟のモニタリング結果によれば、生物の種類・個体数ともに大幅に増加しており、現在も維持している。</p> <p>(課題)</p> <p>○現在は広島港五日市地区人工干潟のモニタリングを実施しているが、その他の干潟・藻場のモニタリングや干潟・藻場の保全・再生の取り組みを、地域の方々との連携も含め広げていく必要がある。</p>	<p>干潟の保全・再生、生物の生息に配慮した護岸の整備は計画どおり進捗。</p> <p>干潟・藻場の再生面積の推移 新たに18.6ha 整備</p> <p>広島港五日市地区人工干潟の整備 生物配慮型護岸の整備(広島港海岸)</p>
<p>人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。</p>	<p>○緑地・野鳥園、親水護岸、海洋レクリエーション拠点などの 親水空間の整備は計画どおり進んでいる。</p> <p>○環境学習などの活動は、各関係機関、NPO 団体等が連携し取り組んだため、着実に増加している。</p> <p>○森林ボランティア等の参加人数も増加しており、市民の広島湾再生への関心も高まっている。</p> <p>○海洋レジャー関係は、宮島へ向かう観光クルーズ船を中心に利用者数が増加している。オープンカフェの利用者数は、店舗数が増加した平成20年度に急増し、その後は店舗数が増えつつある。</p> <p>○広島湾の保全・再生に関する シンポジウム等の開催は減少している。なお、近年は広島湾の水環境改善のためのワークショップ等を開催している。</p> <p>(課題)</p> <p>○近年、ホームページのアクセス数やシンポジウム等への参加人数が伸び悩んでいることから、市民の関心を高めるよう、広島湾の保全・再生の活動を広く知ってもらい取り組みについて検討が必要である。</p>	<p>魅力ある親水空間等の整備</p> <p>1箇所整備完了、2箇所計画中 緑地・野鳥園の整備(大竹港東栄地区港湾緑地)</p> <p>海洋レクリエーション拠点、眺望点整備完了 水辺に触れ合える海岸線(ベイサイドビーチ坂)</p> <p>さらに、眺望点1箇所の整備を実施 宮島 弥山展望休憩所(平成25年11月完成)</p> <p>環境学習などの活動は着実に増加</p> <p>環境教育・普及啓発活動の実施回数の推移 136件増加</p> <p>宮島干潟の生き物観察会 広島市環境サポーター養成講座</p>	<p>オープンカフェやクルーズなど、新たなレジャーを中心に増加</p> <p>海洋レジャー(海水浴等)客の推移 約20千人増加</p> <p>観光クルーズ船利用者数の推移 約53千人増加</p> <p>オープンカフェ利用者数の推移 約82千人増加</p> <p>参加人数が増加</p> <p>森林ボランティア参加人数の推移 約11.7千人増加</p> <p>シンポジウム等は減少(近年は水環境改善等のWSを開催)</p> <p>シンポジウム、フォーラム等への参加人数の推移 460人減少</p> <p>アクセス数が減少</p> <p>広島湾の環境に関するホームページへのアクセス数 約76千アクセス減少</p>
<p>宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。</p>	<p>○住民参加による自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みが増加し維持している。</p> <p>○市民連携による清掃活動等の参加人数は増加している。</p> <p>○広島湾周辺の観光地の年間入込客数は、平成23年度に震災の影響で減少したものの、平成24年度は再び増加している。</p> <p>(課題)</p> <p>○観光地では景観等が適切に管理されているが、ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等に対応するため、継続的な広島湾の保全の取り組みが必要である。</p>	<p>自然景観、歴史・文化的資源の保全</p> <p>取り組みが増加し維持 20回増加</p> <p>ごみ回収の推進</p> <p>参加人数が増加 約15.7千人増加</p>	<p>H23は震災の影響で減少、H24は増加</p> <p>代表的な観光地への年間入込客数の推移 約316千人増加</p> <p>○NPOやボランティアの清掃活動により海岸が美しく維持。 ○ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等の問題が見られる。</p> <p>観光地の状況(元宇品周辺) 海岸での漂着ごみの状況(ごみ回収前)</p>